

地図作りを通して、学びの楽しさや成長の喜びを実感する子ども

富山市立豊田小学校 石田和義

1. はじめに

地図作りが、子ども一人ひとりのくらしや学習と結びついたところで展開されたとき、社会的見方・考え方や問題解決の能力が深まると考える。

子どもが、探検で出会った人・もの・できごとを地図として表現していく。また、地域とのかかわりを通して感じたことや思ったことを継続的に地図に書き込んでいく。このように地図のある生活や学習を実現していくことで、子どもは意欲的に取り組んでいく。



一方で、なかなか地図作りを進めることができない子どももいると思われる。その際、そんな子どもの悩みを十分に聞いたり、調べ方や地図の表し方について互いに話し合ったりする場を設けていくことで、地図作りへの歩み出しを温かく見守るようにする。

2. 実践例—1年間を通して地図作りに取り組む

① 1学期「ぼく、わたしの堀川マップ」の実践

3年生は、探検することが大好きである。そんな子どもに、「ぼく、わたしの堀川マップ」と提示する。子どもは、学校や自分の家を起点にしながら、地域を調べはじめる。そして、自分を見つけ

た生き物や出会った地域の人を地図として表現していく。地図を表現していく過程で、建物や道等の位置という点で、静的なとらえ方にとどまらず、それにまつわる経験や体験を思いおこし、地図に書き込んでいく。そして自分のオリジナルな地図を仲間同士で見あったり、吟味しあったりすることで、自分の地図のできばえに自信を深め、暮らしの中で自分の作った地図を活用していこうとはし始める。

② 2・3学期「わが家の買い物マップ」の実践

2学期には、1学期に製作した地図を活用して、「わが家の買い物マップ」を作ろうとなげかける。子どもは、家族の買い物の仕方を調べ、利用している店を自分の地図に新たに位置づけていく。さらに、家族が利用する店と自分の家の位置関係を正確に確かめ、道でつないだり、家族が利用する店のよさを地図に詳しく書き込んだりしていく。その過程で、1学期に比べ、大きくさらに詳しくなった自分のオリジナルな地図に、自らの成長や高まりを感じ、自信を深めていくと思われる。



3. 終わりに

子どもは、地図作りを継続的に進めていくことで、社会的な見方・考え方や問題解決の能力だけでなく、地域とのかかわりを深めていく。オリジナルな地図ができあがるにつれて、学びの楽しさを心から感じるとともに、自らの成長や高まりを実感していく。これからも、大いに地図作りを進めていきたい。